

標準日本語中級上册 第十課

本課題文

(1) 日本には、東京の言葉を土台にした共通語があり、全国どこにでも通用する言葉として、広く使われています。けれども、一方で、それぞれの地方には、その地方独特な言葉があります。その言葉を方言と言います。方言は、その土地の風土や暮らしと深いつながりがあり、その土地その土地の味わいがあります。そして、自分が生まれ育った土地の方言には、誰もが強い愛着を持っています。

ふるさとのなまりなつかし 駐車場の人ごみの中に そを聞きにいく
これは、石川啄木の短歌です。「ふるさとの方言が懐かしくてたまらない。私は、その方言が聞きたくて、駐車場の人ごみの中にわざわざ出かけていくのだ。」という意味です。故郷の岩手県を離れ、東京で暮らしていた啄木は、ふるさとの言葉に特別の懐かしさを感じたのでしょうか。

ところで、この短歌で歌われている「駐車場」とは、上野駅のことだと言われています。上野駅は、東京の中心にあり、昔から東京の来たの玄関と言われていました。東北地方や上越地方から東京へ出てくる人や、逆に帰っていく人が、大勢乗り降りする駅でした。ですから、そこへ行けば、啄木は生まれ故郷の言葉を聴くことができたのです。

現在も、上野駅の人ごみの中からは、相変わらずふるさとの言葉で楽しそうに話し合う声が聞こえます。啄木のように、ふるさとの言葉が懐かしくて、上野駅にそれを聞きにいく人が、今もいるかもしれません。

(2) 王: ずいぶん混んでいるわね。指定席の切符を取っておいて良かったね。みんな、青森のネブタ祭りに行くのかしら。

佐藤: ふるさとに帰る人も、多いんじゃないかしら。楽しそうに方言で話してる人が、いっぱいいるから。

王: 方言と言え、中国ほどではないけれど、日本にも、土地によって言葉の違いがあるわね。関東では「ありがとう」と言うのを、関西では「お起きに。」と言うんでしょう。

佐藤: ええ、どこに行っても、その土地の方言があるわ。

王: 青森にも方言があるんでしょう。

佐藤: ええ、こんな会話があるそうよ。「度さ。」「遊佐」ねえ、分かる。この言葉の意味。

王: 「どさ」「ゆさ」分からないわ。教えて。

佐藤: 「どさ」は「どこへ行くの」って言う意味。「ゆさ」は「お湯に行く」、つまり「お風呂に入りに行く。」って言う意味なの。青森は寒い地方だから、あまり外で長い話をしないんですって。だから、挨拶も短く縮めて言うらしいの。

王: へえ、そう。方言って、やっぱりその土地の風土や暮らし方と関係

が深いのね。寒いと言葉も短くなるなんて。

本课词汇

词汇 I

土台（どだい）(0) [名] 基础
共通語（きょうつうご）(0) [名] 普通话，通用语言
全国（ぜんこく）(1) [名] 全国
通用する（つうようする）(0) [动 3] 通用
一方で（いっぽうで）(3) [接续] 另一方面
独特（どくとく）(0) [形动] 独特
方言（ほうげん）(3) [名] 方言
つながり (0) [名] 联系
味わい（あじわい）(0) [名] 情趣
生まれ育つ（うまれそだつ）(5) [动 1] 生养
愛着（あいちゃく）(0) [名] 眷恋
短歌（たんか）(1) [名] 短歌
ふるさと (2) [名] 故乡
停車場（ていしゃば）(0) [名] 停车场
わざわざ (1) [副] 特意，特地
故郷（こきょう）(1) [名] 故乡
離れる（はなれる）(3) [动 2] 离开，离别
中心（ちゅうしん）(0) [名] 中心
乗り降りする（のりおりする）(2) [动 3] 上下（车）
生まれ故郷（うまれこきょう）(4) [名] 故土
指定席（していせき）(2) [名] 对号入座
つまり (1) [接续] 也就是
縮める（ちぢめる）(0) [动 2] 缩短
やっぱり (3) [副] 毕竟还是
石川啄木（いしかわたくぼく）(0) [专] 石川啄木
岩手県（いわてけん）(3) [专] 岩手县
上越（じょうえつ）(0) [专] 上越
青森（あおもり）(2) [专] 青森
ねぶた祭り（ねぶたまつり）(4) [专] 倭武多节
関西（かんさい）(1) [专] 关西
～県（けん）～席（せき）…てよかった
甲とは乙のことだ / 甲というのは乙のことだ ～と言えば，…
疑问词+…ても，… …て
…ですって / だって

词汇 II

アクセサリー (1) [名] 首饰
飾り（かざり）(0) [名] 装饰品
画家（がか）(0) [名] 画家

地面（じめん）(1) [名] 地面
鉄道（てつどう）(0) [名] 铁路
ガソリンスタンド（6）[名] 加油站
テレビ局（テレビきょく）(3) [名] 电视台
虫（むし）(0) [名] 虫，虫子
丸い（まるい）(0) [形] 圆，球形的
やはり（2）[副] 毕竟还是
通訳（つうやく）(1) [名] 翻译
残らず（のこらず）(2) [词组] 全部，统统
たっぷり（3）[副] 足够，很多

课程译文

第 10 课 在上野火车站

(1)

在日本，有以东京话为基础的普通话，广泛通用于全国各地。方面，各个地方又有当地独特的言语。这种言语就叫作方言。

方言与当地的风土、生活有深刻的联系，各地有各地的情趣。对待自己生养之地的方言，任何人都怀有强烈的眷恋。

故乡啊，乡音恋恋

去听乡音

在停车场的杂沓中

这是石川啄木写的一首短歌。意思是说“非常怀念故乡的方言。我特意到停车场的人群当中去，就是想听一听乡音。”离开故乡岩手县而在东京生活的啄木，大概是感受到对故乡方言的特殊怀念之情吧。

据说在这首短歌中吟诵的“停车场”就是指上野火车站。上野火车站位于东京的中心，很久以来就被称为东京的北大门，是从东北地区和上越地区来到东京或返回去的人大量上下车的火车站。因此，啄木到那里去就可以听到故土的乡音。

如今，在上野站拥挤的人群中，仍然可以听到用乡音愉快地交谈的声音。现在，说不定还有像啄木那样怀着眷恋乡音之情到上野站去呀听乡音的人呢

(2)

王：其拥挤啊，幸亏事先买好了对号入座的票。是不是大家都是去青森参观佞武多节的？

佐藤：回老家的人可能也不少吧。因为许多人都在愉快地讲方言哪。

王：说起方言，虽然达不到中国那种程度，可是在日本各地也有不同的言语啊。关东地方“XXX XXX”，关西一带就说“XXX-XXX”是吧。

佐藤：对，无论你到哪里去，各地都有当地的方言。

王：青森也有方言吧？

佐藤：是的。据说有这样的对话：“XXX”“冲等。怎么样，明白吗？这话是什么意思？”

王：“XX”“XX”，不明白，给讲一讲。

佐藤：“XX”“XXXXXX 是（到哪儿去）”的意思。“XX”是“XXXXXX。”就是说“XXXXXX

(去洗澡。) ”据说青森这地方挺冷。在外面不能说长话。所以寒地问候都缩短了说。

王：嘿，是这么回事。天气冷所以言语也简练，方言毕竟还是和当地的风土、生活方式有密切的关系呀。

文法：

- 1、甲とは乙のことだ/甲と言うのは乙のことだ
 梅雨とは雨が多く降る時期のことだ。
 ガソリンスタンドとは自動車にガソリンを入れるところのことだ。
- 2、…てよかった
 昨日のうちに準備しておいて良かった。
 先生に頼んでよかった。
- 3、～と言えば、…
 来週は、東京に行きます。
 東京と言えば、さっき、東京でおおきなじしんがあったらしいですね。
 これから図書館に行こうと思う。
 図書館と言えば、君の学校の図書館は、本がたくさんあるそうだね。
- 4、疑問詞+…ても、…
 誰が来ても、歓迎する。
 いつか訪ねても、家にいない。
- 5、動詞の「て形」
 ご飯を作って
 写真を撮って
- 6、…ですって/だって
 旅行に行くんですって。
 (旅行に行くそうです。旅行に行くということです。)

テレビを買うんですって。

言葉の使用の仕方：

- 1、どこにでも…：この虫はどこにでもいます。
- 2、その土地その土地の：その人その人の世界観があります。
- 3、だれもが…：誰もが、平和で豊かな生活をしたいと思っています。
- 4、短歌：(日本一种代表性的定型诗。一般共 31 拍，5 句。各句拍数的顺序是：57577)
- 5、わざわざ：お忙しいのに、わざわざお出でくださって、ありがとうございます。
- 6、切符を取る：中国語「預定」という意味だ。
- 7、～ほどではないけれど、…：北海道ほどではないけれど、東京でも雪が降ります。
- 8、ねえ、分かる。この言葉の意味。(疑問句。句末用升调)
- 9、やっぱり：王さんは、私より日本語が上手です。通訳は、やっぱり王さんに頼みましょう。
- 10、…なんて：日本のサラリーマンはたいへんですね。通勤に 3 時間もかかるなんて。

11、 石川啄木：（1886－1912）岩手県に生まれた。「和歌」の詩人。

12、 数量、程度を表示する副詞：

- ① すべて：旅行の準備は、すべて終わった。
- ② 全部：その本は、もう全部読んだ。
- ③ みんな：料理は、みんな美味しかった。
- ④ 残らず：泥棒に、お金を残らず盗まれた。
- ⑤ いっぱい：知りたいことが、いっぱいある。
- ⑥ ほとんど：中国語は、ほとんどわかる。
- ⑦ たくさん：たくさん食べてください。
- ⑧ たっぷり：時間は、たっぷりある。